

第3分科会 指導・育成

〈研究課題〉これからの学校を担う人材育成をマネジメントする校長の在り方

〈趣旨〉

「教育は人なり」と言われるように、学校教育の成否は教員の力量にかかっていると言っても過言ではない。また、令和の日本型学校教育は高度な指導力を必要とするものであり、これまでの研修観を転換して「新たな教師の学びの姿」を実現することが求められている。そのため校長は、全校的な学び合い文化の醸成や、協働的な職場環境づくりを行い、時代の変化に応じた高い資質能力を持つ教職員を育てなければならない。同時に、学校現場が抱える多くの課題を解決するためには、校長のリーダーシップの下で、外部人材を含めた多様な専門性を有する質の高い教職員集団を形成することが求められている。教員の担い手不足や世代交代が進行する中、学校の組織としての教育力や課題対応力を最大化するため、校長はマネジメント能力等を発揮して、若手教員のサポート機能を強化するとともに、学校内での学びをリードするミドルリーダーを組織的・計画的に育成する必要がある。

本分科会では、これからの学校教育を担う人材育成をマネジメントする校長の在り方について、具体的な方策と成果を明らかにする。

〈視点〉① 教職員の資質能力を高め、学校の教育力を向上させる研究・研修の推進（高知）

② 学校の組織力の向上と若手教職員・ミドルリーダーの育成（愛媛）